

(・小論文) ・ 総合問題 ・ 日本語作文) 出題意図

法学部 法学科 (昼間コース)

○ 試験の種別

- ・ 総合型選抜 (ディスカバリー入試)
- ・ 総合型選抜 (大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅰ (大学入学共通テストを課さない)
- ・ 学校推薦型選抜Ⅱ (大学入学共通テストを課すもの)
- ・ 社会人選抜
- 私費外国人留学生選抜

SDGsにおける17の目標	16(平和と公正をすべての人に)
問題1 社会的問題について論じた文章を読んだ上で、問題文の内容を正確に理解し(読解力)、自らの主張を組み立てて(構成力と発想力)、的確に表現する能力(表現力)を問うものである。 日本の地域社会において、かつては、人はその土地のコミュニティと強い結びつきを持っていたこと、それに対して、近年では、地域コミュニティの機能が消滅しつつあること、移動の自由や通信手段の自由がその変化を促したという筆者の分析を踏まえて、自らの考えを展開する必要がある。 地域格差について、多様な価値観を持つ人々が共存する地域社会の実現を望む筆者の主張は、SDGsの目標16にも合致するものである。	
問題2 問題文は、「社会的連帯」が必要となる理由づけを検討する論文であり、抜粋部分は、社会的連帯を、人びとの自発的な連帯である「人称的連帯」と制度化され強制によって成立する「非人称的連帯」に分け、それぞれの特徴を説明するものである。国家による強制的な年金制度、健康保険制度等は、非人称的連帯に属するものであるが、そのような制度を維持するべきかについて近年議論がある。問題2は、問題文から、非人称的連帯が必要な理由を読み取り、それを整理し、また展開して述べることを求めるものである。 この問題は、公正な福祉のあり方に関するものであり、SDGsの目標16の実現に資するものである。	